



親次第・・・

以前、「青少年育成センターだより第21号」で紹介した話です。

・・・彼は小さい頃、お父さんについてタバコ屋さんに行きました。その時、5千円札を一枚出したところ、おつりとして8千円と小銭が返ってきました。「お父さん、おつりが多いやんか。おばちゃん、間違えてはるで」と言うとお父さんは彼を殴りつけ、「余計なことを言うな。黙ってたら分からへん」と言い放ったそうです。ちなみに、お父さんのこの行為はつり銭詐欺で刑法上の罪に問われます。この経験が少年の人格の根っことなって、後には彼は万引きを繰り返し、最後はひったくりを行って被害者に怪我を負わせたために「強盗致傷罪」に問われました。お父さんは「おまえには十分に小遣いを与えていたはずだ」と彼に怒りをぶちまけていましたが、もともとは「ばれなければいいんだ」と自分が8千円をごまかしたことがきっかけなのです・・・。

ここでもう一つの話を紹介します。

・・・嘘をつかないことの大切さを、子どもは直接親の姿から学びます。親が何を言い、どんなことをするのかを、子どもはいつも見守っているのです。子どもが幼ければ幼いほど、親の影響力は大きくなります。9歳のアリシアとお父さんは、レストランでお昼ご飯を食べ終わりました。2人が、レジでつり銭を多くもらってしまったことに気づいたのは、駐車場に出てからでした。「アリシア、ちょっと待って。お釣りがまちがっているよ」お父さんは、手のひらのお金を見せながら言いました。2人で暗算してみると、5ドルも多くもらってしまいました。「行って返してこよう」。お父さんは言いました。アリシアはちょっとがっかりでした。5ドルももうかったのに・・・でもお父さんの言うとおりで。レジの人はとても喜びました。店を閉めるとき、もし、5ドル足りなかったら、この釣銭のミスは、自分が弁償することになっていただろうと言いました。店長が、このやりとりを脇で聞いていました。そして、お父さんに割引券をくれました。店を出たアリシアとお父さんは、とてもいい気分でした。「アリシア、お金を返して、やっぱりよかっただろう？」「結局得したもんね」。アリシアは答えました。「損得は関係ないんだよ」。お父さんは言いました。「でもね、嘘をつかずに本当のことを言えば、思ってもみなかったようないいことがあるものなんだよ」・・・

「子どもが育つ魔法の言葉」より

いかがでしょうか？まさに正反対の話を紹介しました。この話から、正直に生きることの大切さについて考えさせられますが、私はそれ以上に「子どもは、親の姿しだいで変わるのだ」ということを改めて教えられました。

初めの事例では、少年は徐々に悪に染まっていき、最終的には「強盗致傷罪」に問われるような人間になってしまいました。おそらく、お父さんのお店での対応次第ではまっすぐに生きていったことなのでしょう。彼の人生は、大きく変わってしまったのです。

次の事例のアリシアは、父から正直に生きることの大切さについて教えられたことで、きっとよい人生を歩むことができるでしょう。アリシアの明るい未来が想像できます。

これまで、この青少年育成センターだよりで度々「子どもには、親のよい姿を見せましょう」と伝えてきました。まさにこの2つの事例はその大切さについて十分教えてくれるものでした。



(文責＝青少年育成センター 指導員)